

今後の検証委員会の進め方について（副座長素案）

上山信一

2019年8月16日

- 1、今後はワーキングチームを設け、事務局の協力のもと資料の収集分析、関係者、有識者へのヒアリングを行う
 - ―企画提案から意思決定、実施準備、実際の展示に至るまでの経緯と事実関係の整理
 - ―契約書、規約・規則、議事録等の文献の収集と分析
 - ―実行委員会関係者、県庁関係者（含む会場関係者）外部の作家、キュレーター等へのヒアリング
 - ワーキングチームの作業は委員全員が分担して作業し、9月下旬を目途に1回目の経過報告をする（第2回委員会）

- 2、1でわかった事実関係を広く情報公開したうえで広く県民、作家、キュレーターや識者に「あるべき姿」について公開で討議いただき、それを手掛かりに提言をまとめる
 - ―例えば、トリエンナーレの臨時プログラムとして「表現の自由に関する公開フォーラム（仮称）」を開催してはどうか？
 - ・検証委員会が開催をサポート
 - ・出展作家のほかキュレーター等に意見を聞く
 - ・表現の自由を巡る内外の実態を広く共有する（法律、事例、考えの幅の広さ）
 - ―今回の「不自由展」の是非、やり方、課題等について賛否両論を含めて自由に討議
 - 9月中を目途に開催が望ましい